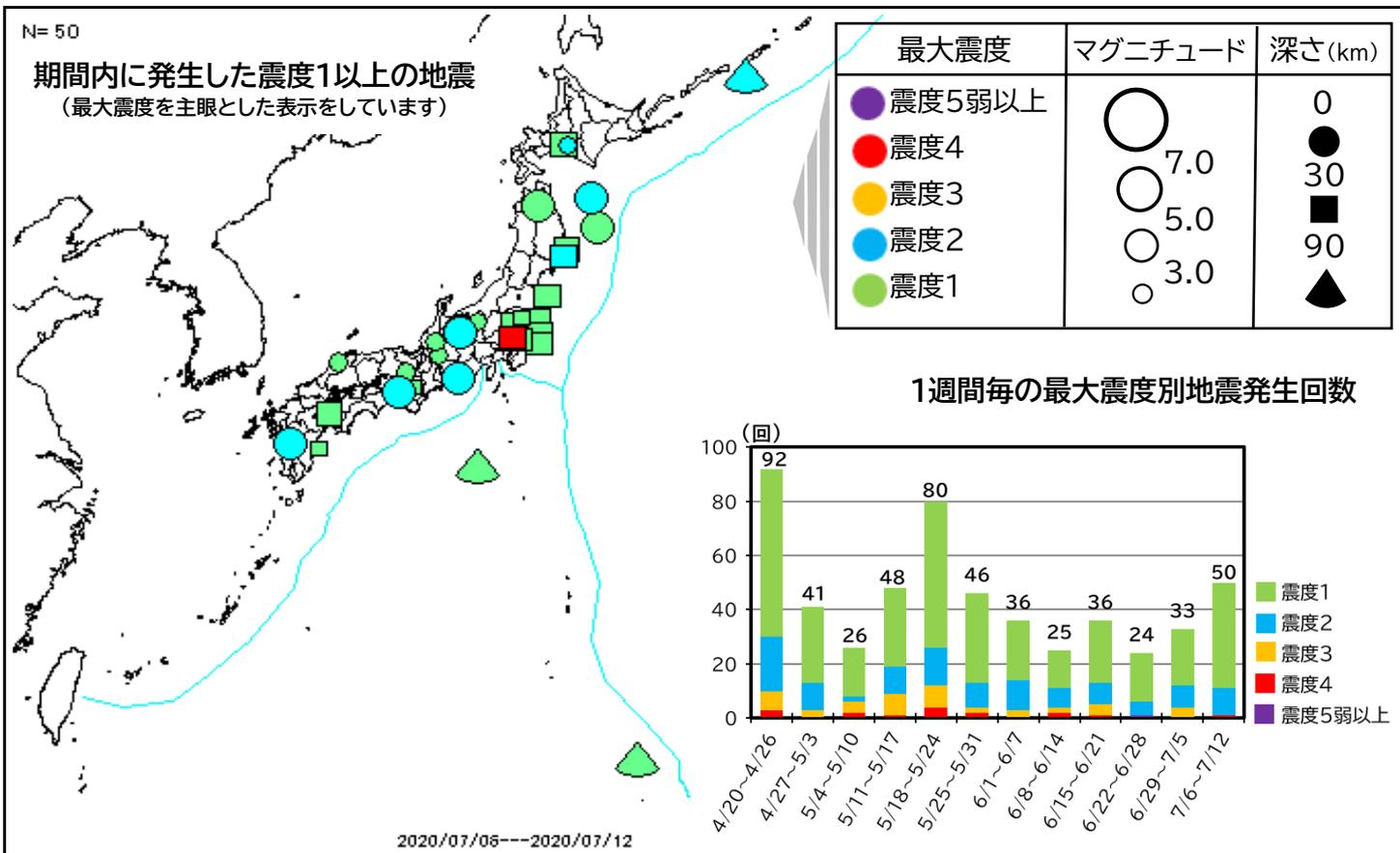


この期間の最大震度は4

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況

- この期間、震度1以上の地震が50回発生(このうち長野・岐阜県境が15回)。最大震度は4 ■
- ・長野・岐阜県境(上高地付近)の地震はこの期間、最大震度2が3回、震度2が12回発生し、活動開始以来合計212回となった。
- ・7月9日06時05分に茨城県南部で発生した地震(M4.7、深さ45km)により、茨城県、栃木県、群馬県及び埼玉県で震度4を観測。この地震は、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した逆断層型。この付近は定常的に地震活動が活発な所でM5以上の地震は年に1回以上発生しているが、ここ数十年間でM7を超える地震は発生していない。

トピックス

- 磐梯山噴火と野口英世 ■
- ・1888年(明治21年)7月15日07時45分頃、福島県の磐梯山が大噴火し、山体崩壊に伴い北側の集落が埋没し、死者477名となる大災害となった。
- ・噴火に伴う噴出物は河川をせき止め水位が上昇し、次第に湖沼となり、川沿いの集落は移転を余儀なくされた。
- ・一方で、河川がせき止められたことにより、噴火から2年余りの間に、現在の松原湖などの多くの湖沼が誕生。その後の整備もあって、裏磐梯一帯は風光明媚な景勝地に生まれ変わり、現在では多くの観光客を集めるようになった。
- ・噴火の1週間前頃から、顕著ではないが鳴動や遠雷音が何度かあったとの記録があるが、ほとんどの住民は噴火が差し迫っているとの認識には至らなかった。
- ・このような前兆現象は、現在の観測体制によって捉えられる可能性があり、何らかの警報を出せる可能性が高い。
- ・現在の私たちは、整備された観測体制による前兆現象の検知に基づく警報等を基に、予め整備されたハザードマップや地域での防災計画を活用することにより人的な被害を減らすことが可能であろう。
- ・ところで、磐梯山噴火の当日、我が郷土の英雄である野口英世の行動について興味深い証言があるので紹介する。
- ・噴火当日は日曜日で学校は休みであったため、11歳であった英世は弟と近くの川で釣りをしていたとの姉の証言がある(出典:野口英世記念会)。
- ・噴火後の裏磐梯一帯は、噴火に伴う噴出物に覆われて数十年間荒地のままだったようで、英世は噴火後の裏磐梯を含む生まれ育った地の変貌をどのように見たのか、郷土民としては興味がわくところである。

